

岐阜県におけるアライグマの生息状況 その2

——アライグマの夜間活動記録——

梶浦 敬一*・安藤 志郎

The Habitat Situation of *Procyon lotor* in Gifu Prefecture
 —— A record of the movement of *Procyon lotor* in the night ——

Keiichi KAJIURA・Shiro ANDO

1. はじめに

アライグマの可児市における生息状況について本調査研究報告第6号で報告した。今回は、その後の調査による生息分布の追加報告と、赤外線自動カメラによるアライグマの夜間の活動記録を報告する。

2. アライグマ生息状況追加

表1 アライグマ目撃・捕獲事例

目撃・捕獲場所	年月日	頭数	雄雌	備考
可児市 下恵土	1985・6～7	4	1♀3ex.	親子 餌を食べるようになる。
〃 土田	1985・10	1	—	捕獲される
各務原市 須衛	1984・11	1	♀	捕獲
〃 須衛	1985・8・22	2	1♂1♀	捕獲 1頭死亡
岐阜市 長森	1985・10・31	1	—	保護

各務原市須衛は、岐阜市、関市と境を接している。前回の報告で坂祝での生息が確認されているので、その延長上にある各務原市へ広がっていったものと推測される。各務原市で捕獲されたアライグマは3頭とも成獣であり、♀は明らかに出産経験を有する個体であった。上記以外にも、可児市帷子で親と幼獣2頭の見撃があったり、大脇で捕獲した幼獣3頭のうち1頭を飼育している事例も報告された。県外においての報告は、犬山市今井で1頭捕獲（毎日新聞写真部宮田、1986私信）春日井カンツリーで1頭（CBC池田、1985私信）確認され、土岐市で見撃の報告もあるが確認できていない。これらの事例から、生息分布は拡大しているものと考えられる。

3. アライグマの夜間活動記録

1) 調査方法

可児市土田、アライグマ巣穴付近のけもの道に赤外線自動カメラを設置し、アライグマがカメラの前を通過するごとに記録できるようにした。

調査期間は1985年2月～1986年1月までの1年間で、記録日数は93日であった。同時に記録温湿度計を近くに設置し、最低温度との関係を調査した。

記録に使用した自動カメラは2台で、

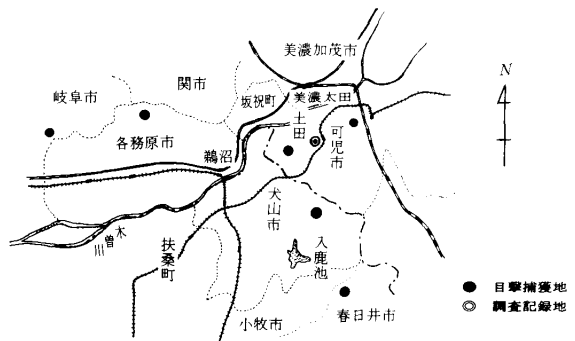


図1 アライグマ目撃・捕獲地

* 岐阜県立加茂高等学校教諭

梶浦と安藤とが交代で設置した。

2) アライグマの活動記録結果

表2は、アライグマの活動記録である。記録された哺乳類には、アライグマの他に、イタチ、タヌキ、ハクビシン、アカネズミ、ノネコであったが、出現回数の多いイタチ、タヌキの記録を載せる。表2にプロットされた点は、同一場所で同一個体が行動していると判定できる場合は1回とし最初の出現時間を記録した。30分以上経過して通過していれば再度記録することにした。



写真1 設置された自動カメラ

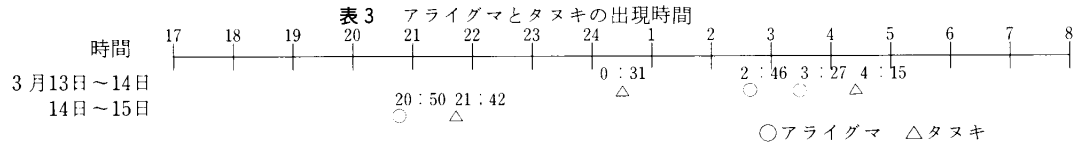
3) 記録からの考察

活動時間帯

活動は、日没40分後～日の出60分前までに集中している。夜行性の動物は、日没直後と日の出前に活動が活発になるといわれているが、夜間終始活動している。このことは、タヌキのテレメトリー調査の結果（池田，1980）とも類似し、アライグマとタヌキの活動時間が一致すると考えられる。

タヌキとの関係

下表は、1985年3月13日と14日の記録である。



タヌキの巣穴は尾根近くにあり、すぐ下にアライグマの巣穴がある。巣穴から調査地点までの距離は50m程度である。けもの道は共有しているらしく、同一場所でタヌキ、アライグマが記録された。アライグマとタヌキは、時間を離して出現し、出会うことはない。記録から判断することは困難であるが、現状では共存している。出会った時、どちらが優先するかは、今後の研究を必要とする。

出産期の推定

今回の調査で7月31日、親（雌）と幼獣（4）が記録（写真7）され、繁殖が確認された。この時の幼獣は生後2ヶ月程度と推定される。同一場所で10日後、CBCテレビ池田氏により幼獣4頭がビデオに記録された。この幼獣は、前出個体より大きく、少なくとも3ヶ月を経過していると推定される。

表4は、アライグマ出産期及び交尾期を示す。妊娠期間を約65日として計算した。

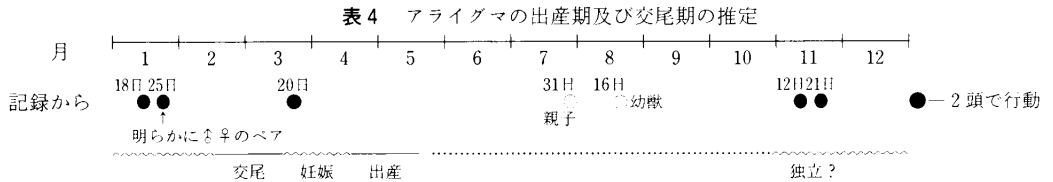


表2から、11月～3月にかけて2頭での行動が記録された。これらの行動から、交尾期は2～3月頃、出産期は5月頃と推定される。何月頃から独立するのか明らかでないが、少なくとも11月頃から蓄いを形成すると考えられる。

気温と活動との関係

気温は、記録温湿度計で測定した。タヌキは厳冬期に活動が少なくなることもあることから、最低気温とアライグマの活動を調べてみた。今回の調査から、アライグマの活動は冬期でも活発であり、

少なくとも可児においては気温による影響は受けていないことがわかった。

イタチの活動

イタチの活動は、日の出後にも3例あり、アライグマ、タヌキと、活動パターンが異っている。

4 要約

赤外線自動カメラを使用し、アライグマの夜間活動を記録した結果、次の点が明らかになった。

- 1) アライグマは、日没後から日の出前まで夜間活発に活動する。
- 2) 可児市においては、アライグマとタヌキは共存している。
- 3) アライグマの出産期は5月頃と推定される。
- 4) アライグマの活動は、気温に左右されないものと考えられる。

Summary

From some observations of movement of *Procyon lotor* in the night by using an automatic camera, we came to the following conclusion.

- 1) *Procyon lotor* is seen to move around vividly from sunset till sunrise.
- 2) In Kani-City, Gifu Pref. *Procyon lotor* co-exists with *Nyctereutes procyonoides*
- 3) It is presumed that *Procyon lotor* breeds around in May.
- 4) The movement of *Procyon lotor* does not seem to be affected by the change of atmospheric temperature.

5. 参考文献

- 安藤志郎・梶浦敬一 1985 岐阜県におけるアライグマの生息状況・岐阜県博物館調査研究報告 第6号：23～30
池田 啓 1980 発信機を着けたタヌキ・日本の野生を追って 朝日 総編 東海大学出版会：106～131



写真2 アライグマ 1985年9月22日1時19分



写真3 タヌキ 1985年9月22日0時59分



写真4 イタチ 1985年8月21日20時7分



写真5 アライグマ 1985年8月21日23時1分



写真6 アライグマ 1985年11月20日18時37分



写真7 親子のアライグマ 1985年7月31日



写真8 巣穴近くのけもの道で

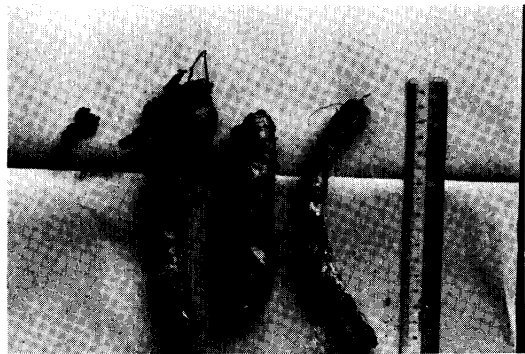


写真9 アライグマの被害にあったダイコン

表2 アライグマ活動の記録

